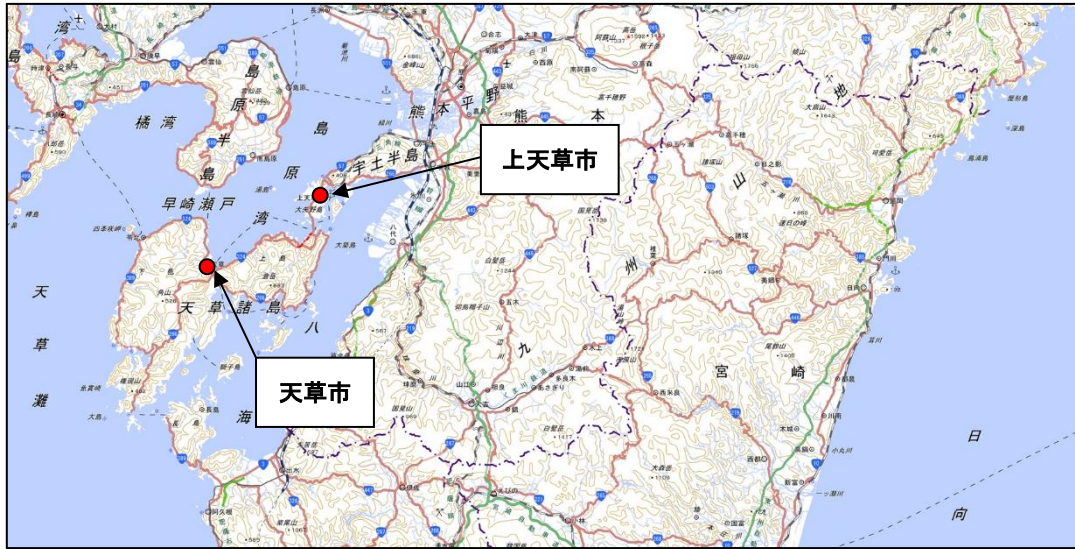


年号：1972年

月日：7月3日～15日

災害名：昭和47年7月豪雨〔47.7豪雨（えびの）地すべり性崩壊、47.7豪雨（天草）による崩壊〕の概要

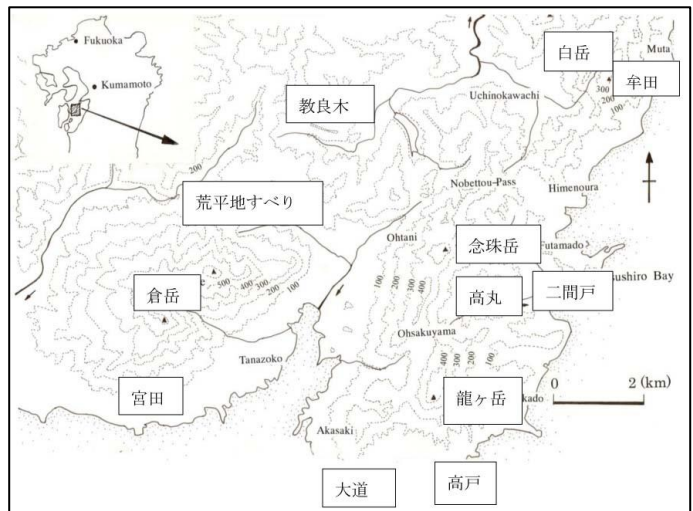
熊本県上天草市、天草市位置図



出典：国土地理院

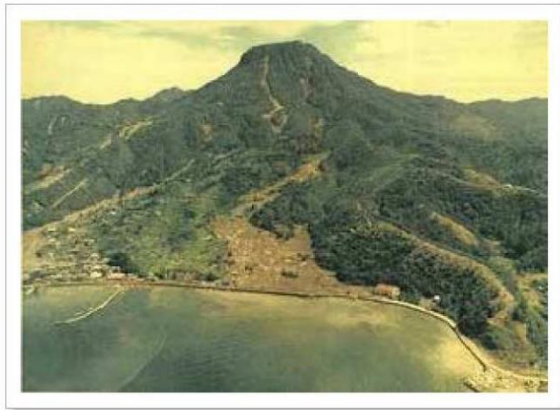
【1972年天草豪雨災害の概要】

- ・1972（昭和47）年7月7日～6日にかけて、九州各地で豪雨災害が多発した。特に、7月6日は熊本県南西部の天草上島一帯で激しい豪雨となった。
- ・上天草市龍ヶ岳町では、11時～12時の1時間降水量が130mmに達し、天草上島の各地で1時間雨量が100mmを超える記録的豪雨となった。この地域では、約4,000箇所を超える斜面崩壊と、それに起因した土石流が発生した。
- ・土石流により、上天草市龍ヶ岳町・姫戸町・松島町、天草市倉岳町などで、死者・行方不明者115名を出す大惨事となった。

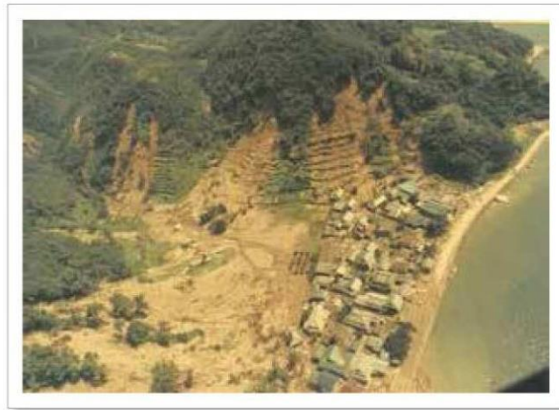


▲1972年天草豪雨災害被災地の位置図

出典：1972年天草豪雨災害被災地に分布する災害慰霊碑の防災への活用（徳島大学環境防災研究センター 西山賢一）



災害発生後の状況(龍ヶ岳町 大道地区)



災害発生後の状況(龍ヶ岳町 高戸地区)

出典：上天草市 HP



▲当時の被災状況

出典：天草市 HP 倉岳支所所蔵写真

- ・天草豪雨災害後、複数の防災集団移転促進事業が進められ、現地には災害関連の慰霊碑・記念碑が多く残っている。今回は、下図の10地点について現地調査を実施した。



▲現地調査の位置図

出典：国土地理院

【災害復旧記念碑：上天草市姫戸町二間戸】

- ・姫戸町二間戸地区には、姫戸町内の被災住民が災害後に集団移転してできた二間戸団地がある。団地内の公園に災害復旧工事の完了を記念した「災害復旧記念碑」が建てられており、当時の姫戸町長名が碑文末尾に刻まれている。碑の材料は、集落に流下してきたものと同じ砂岩が使用されている。



▲災害復旧記念碑の位置（上天草市姫戸町二間戸）



▲二間戸団地の公園にある「災害復旧記念碑」



■災害復旧記念碑の碑文

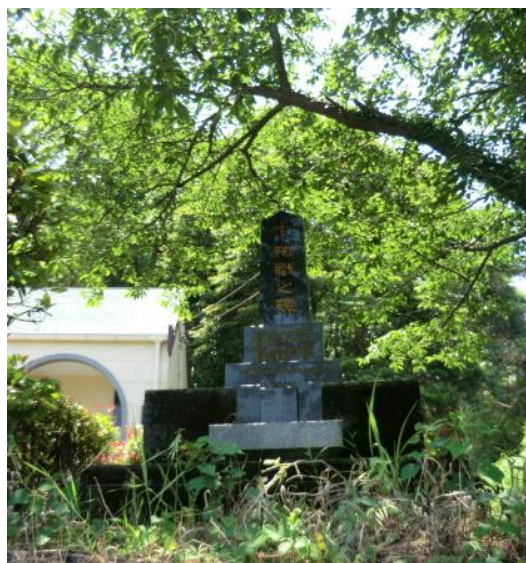
「昭和四十七年七月六日 集中豪雨による山津波は当町に壊滅的打撃を与えた
死者四十五名 全壊家屋百二十四戸半壊二十八戸 床上浸水二百九十九戸のほか 道路の損壊橋梁の流失 農地の流失 埋没など その被害額は実に六十億円を超えるものであったこの想像を絶する惨状を前に 被災者は茫然自失し為すところを知らなかったが町民の復興への意欲は凄まじく国、県の格別の補助と全国よりの暖かい支援の下 総力を結集して災害復旧に立ち上った
われわれは一致団結 あらゆる苦難を乗り越えて 復興の槳音を日夜 山々に研させたのであるいま復旧工事は美事完成し郷土姫戸は甦った
ここに復興の碑を建てこれを後世に伝えんとするものである
昭和五十二年三月三十一日 姫戸町長 清水真一」

【殉職之碑：上天草市姫戸町二間戸】

- ・姫戸町下神代地区には、公進ケミカル株式会社の工場敷地に流入してきた土石流による犠牲者の「殉職之碑」が建てられている。石碑には、碑文とともに、犠牲となった9名の社員名が刻まれている。
- ・工場は被災後、隣の龍ヶ岳町大道の高台に移転し、現在は天草イエス之御霊教会となっている。



▲殉職之碑の位置（上天草市姫戸町二間戸）



▲天草イエス之御霊教会内にある「殉職之碑」



■殉職之碑の碑文

「昭和47年7月6日 水害に依り此処に殉職す
公進ケミカル株式会社」

【一陽来福：上天草市龍ヶ岳町高戸】

・龍ヶ岳高戸脇浦地区には、「一陽来福」と書かれた石碑が建てられている。碑の建立者は「脇浦区民一同」となっており、7名の犠牲者を悼むとともに、「区民挙つて安住復興の光を求めて、海を埋立て郷を築きここに移住する」と書かれている。



▲一陽来福の位置（上天草市龍ヶ岳町高戸）



▲天草広域連合中央消防署東天草分署脇にある「一陽来福」



■一陽来福の碑文

「昭和47年7月6日午前11時20分、豪雨により山津波が発生して脇浦の郷は空前の大災害を被った。

災死者（7名の名前）7名の物故者を始め、重傷者11名、負傷者3名、住家の流失埋没35戸、他倒壊半壊多数の惨状となったが、この真暗な災禍の中から、区民挙つて安住復興の光を求めて、海を埋立て郷を築きここに移住する。

昭和51年7月6日建立」

【建郷之碑：上天草市龍ヶ岳町高戸】

- ・龍ヶ岳町高戸小屋川内地区の住宅地に、「建郷之碑」が建てられている。碑の建立者は「小屋川内区民一同」となっており、8名の犠牲者を悼むとともに、「安住の地を求めて海面を埋め立て郷を築き、ここに移住する」と書かれている。



▲建郷の碑の位置（上天草市龍ヶ岳町高戸）



▲「建郷之碑」



■建郷之碑の碑文

「昭和47年7月6日午前11時20分、上天草を襲来した集中豪雨により山津波が発生し、我等が小屋川内郷に於いても未曾有の壊滅的打撃を受けた。

災死者(亡くなった方の氏名と年齢)8名の尊い物故者を始め住家の流失埋没47戸、半壊4戸、床上床下浸水全戸に及ぶ惨状となったが、この災禍中から区民挙げて祖先墳墓の郷土再建に奮起し、安住の地を求めて海面を埋め立て郷を築き、ここに移住する。

昭和51年7月6日 建立

小屋川内区民一同」

【転禍為福：上天草市龍ヶ岳町大道】

- ・龍ヶ岳町大道地区には、「転禍為福」と書かれた石碑が建てられている。碑の建立者は「大道東浦西浦区民一同」となっており、8名の犠牲者を悼むとともに、「区民一致協力郷土の再興を決意する」と書かれている。



▲転禍為福の位置（上天草市龍ヶ岳町大道）



▲団地付近にある「転禍為福」



■転禍為福の碑文

「昭和47年7月6日午前11時20分上天草地方を襲った集中豪雨により大道部落に於いても数ヶ所の山肌決壊ため大山津波となり一瞬にして8名の尊主命を奪い全壊家屋43戸半壊31戸床上浸水23戸床下75戸に及ぶ大被害を蒙った。よってこの埋立地に碑石を建立し被災者の霊を慰めると共に区民一致協力郷土の再興を決意するものである。

昭和52年7月6日

大道東浦西浦区民一同」

【水害復興の碑：天草市倉岳町棚底町】

- ・天草市役所倉岳支所内には、5 mを超える巨大な「水害復興の碑」が建てられている。当時の熊本県知事が寄せた碑文には、29名の犠牲者を悼むとともに、被災状況や復旧工事の状況が書かれている。



▲水害復興の碑の位置（天草市倉岳町棚底）



▲天草市役所倉岳支所内にある「水害復興の碑」



■ 水害復興の碑の碑文

「熊本県知事 沢田一精

水害復興記念碑建立に当りて

昭和四十七年七月六日上天草山系に遮ぎられた梅雨前線は午前八時頃から正午頃迄三百二耗に及ぶ千古未曾有の集中豪雨をもたらし上島五町では随所に山津波が起り、倉岳町でも死者二十九名（浦地区で十三名、宮田地区で十六名）、全壊家屋七十四戸、半壊家屋六十戸、床上浸水百二十八戸、床下浸水九百六十三戸、耕地の流失埋没百二十四ヘクタール、道路、橋梁も各所で損壊し、被害総額七十三億円に達する大災害となって陸の孤島と化し町民悉く罹災した。

呆然自失、為すことを知らざりし有様の中、倉岳町災害対策本部を設け救助活動を開始し、国や県及び全国各地から救援の手が延べられるや町民の災害復興への意欲が燃え上がり人機一体の血の滲む努力によって災害復旧工事は完成し、陸に海に活気溢れる生業を見られるに至った。

（救助に派遣された自衛隊員千四百六十名中1名殉職。全警察官二百八十名。郡内消防団員外多数）

茲に水害十年目を迎えるに当り、犠牲となられた方々の御霊の安らかならん事をお祈りし、災害復興に貢献された関係各位に深甚なる敬意と感謝を表し、永へに故郷の山青く、海青き大空の下に栄えゆく人々の上に護郷の防災の鎮めたることを希って此の地に碑を建てる。

昭和五十六年七月六日

倉岳町長 坂本未春

全議会議長 吉森 哲

他議会議員一同

他町民一同

建立石工 本渡市下浦町前小手

池田石材店 花田正信」

【水害復舊記念碑：天草市倉岳町宮田】

- ・倉岳町宮田地区には、復旧工事関係者名を記した「水害復舊記念碑」が建てられており、付近にも同様の石碑が点在している。



▲水害復舊記念碑の位置（天草市倉岳町宮田）



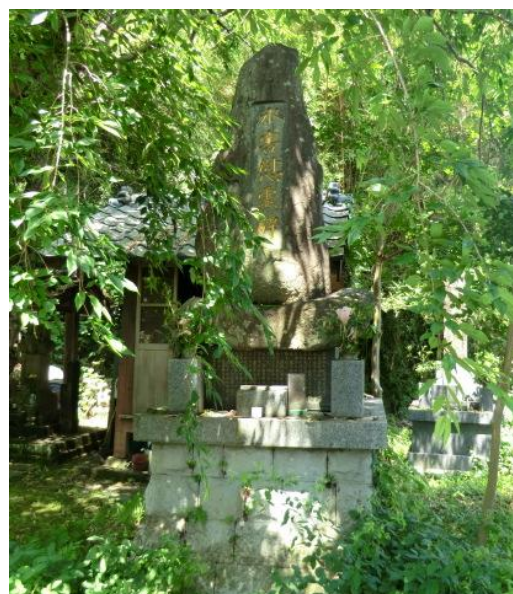
▲砥石川付近にある「水害復舊記念碑」

【水害慰霊碑：天草市倉岳町宮田】

- ・倉岳町宮田地区の遺迎寺境内には、「水害慰霊碑」が建てられている。石碑には「ここに7.6災害の犠牲となられた十六柱の冥福を祈り 慰霊碑を建立してその霊を弔う」と書かれている。



▲水害慰霊碑の位置（天草市倉岳町宮田）



▲遺迎寺境内にある「水害慰霊碑」



■水害慰霊碑の碑文

「昭和47年7月6日

上天草東海岸一帯を襲った集中豪雨は600ミリを超え突如として起きた山津波は倉岳矢筈岳に源を發する殆んどの河川に溢れ 農地は勿論多くの人家まで流失埋没 或ひは倒壊して修羅の巷と化し 荒廃その極に達し 濁流に吞まれて尊い人命を失われた方々は宮田地区だけでも17名の多きに上がった。まことに痛恨の極みである。即刻災害救助法の適用を受けあらゆる手段を講じて罹災者の救援活動に挺身したためより以上の災厄から免れたとは言え今次災害は実に千古未曾有の大惨事であった。

ここに7.6災害の犠牲になられた十六柱の冥福を祈り 慰霊碑を建立してその霊を弔う。

昭和49年7月6日」

【天草大島大水害水位標柱：上天草市松島町教良木】

- ・松島町教良木地区には、J Aの敷地内に「天草大島大水害水位標柱」が建てられている。標柱には、当時の浸水深さが刻まれており、周囲の路面から約2 mの高さまで浸水したことがわかる。



▲天草大島大水害水位標柱の位置（上天草市松島町教良木）



■天草大島大水害水位標柱の碑文

「昭和47年7月6日

天草上島大水害水位標柱」

【災害復旧記念碑：上天草市松島町教良木】

- ・ J Aに隣接する上天草市教良木川出張所の駐車場内には、「災害復旧記念碑」が建てられている。建立者は松島町であり、碑文には被災状況や復旧工事の状況が詳細に書かれている。



▲災害復旧記念碑の位置（上天草市松島町教良木）



▲上天草市教良木川出張所内にある「災害復旧記念」

■災害復旧記念碑の碑文

「昭和47年7月6日正午突然の集中豪雨は時間降雨量120ミリに達し山腹に山津波が生じ未曾有の大水害が発生した。特に教良木大河内、今泉地区が被害甚大で、交通、電気、通信は寸断され死者3名、住家の全壊47戸、半壊181戸、浸水家屋589戸、道路、橋梁、河川、水路、溜池、堰の決壊流失約900ヶ所、田畑の流失埋没90ヘクタール、被害総額40億円に及び、瞬時にして惨状を呈し大混乱に陥った。町は即時災害対策本部を設置、災害救助法の発令を受け、全町民を始め、自衛隊、隣接町消防団その他各方面の応援を受け、日夜をわかつたず救助活動に全力を尽くした。復旧にあたっては国、県の特別なる協力を得、激甚災害補助の適用を受け、改良復旧工法で、公共土木151ヶ所、工費4億7800万円、農林土木679ヶ所、23億600万円、その他の施設県営事業等約10億円に及ぶ工事を発注から4カ年の歳月を要し、昭和51年3月完成した。

この歴史ある大事業を永遠に伝えるためここに復旧記念碑を建立する。

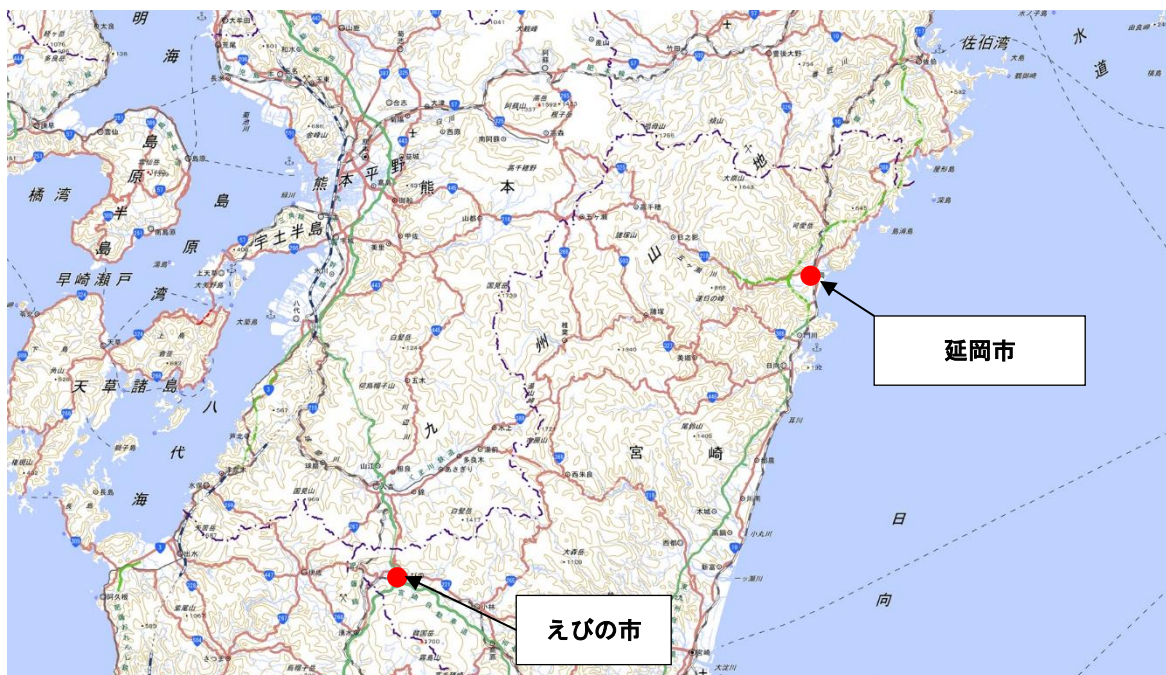
昭和51年3月

建立者 松島町

参考文献：1972年天草豪雨災害被地に分布する災害慰霊碑の防災への活用

（徳島大学環境防災研究センター 西山賢一）

宮崎県延岡市、えびの市位置図



出典: 国土地理院

**【スイッチバック線ホームに残る山津波記念石：
えびの市真幸字内堅】**

- ・昭和 47 年（1972 年）7 月 3 日より、梅雨前線を伴った低気圧に暖湿気流が流れ込み、九州と四国で局地的な大雨が降った。（雨は 15 日まで続いたとされている）
- ・霧島山周辺も集中豪雨に見舞われ、総降水量は 500mm 以上を観測した。さらに、えびの市の熊本県境付近では総降水量が 600mm 以上に達した。
- ・7 月 7 日、えびの市の J R 肥薩線真幸駅の裏山が、8 合目付近（海拔 500～600m）で地すべり性崩壊を起こし、山津波が発生。
- ・山津波は 6 日の 14 時 15 分から 5 回発生し、高さ 350m、幅 280m に渡り、山地が崩壊した。30 万 m³ に及ぶ土砂が、J R 肥薩線を切断して白川沿いに 1.5 k m 流出した。この災害で住家 28 戸、非住家 29 戸が流失し、4 名が亡くなった。
- ・しかし、ほかの地区住民は昭和 40 年（1965 年）の土石流の教訓を踏まえ、発生直前に避難して難を逃れたという。
- ・山腹の崩壊が起こる直前に杉・檜林の異常な揺れに気づいた集落の古老が「山津波が来る」と言って、集落の人々をいち早く高台に避難させたからであるとも言われている。



▲山津波記念石の位置
（えびの市真幸字内堅 JR 肥薩線真幸駅）



▲倒壊・流失した家屋の状況



▲崩壊地と流出土砂
出典：宮崎県 HP（えびの市所蔵）

・ JR 肥薩線真幸駅のホームにある「山津波記念石」は、昭和 47 年 7 月の被災後、当時の真幸駅長がスイッチバック線ホームに取り残されていた推定重量約 8 トンの岩石を「災害記念」として説明板を設置したものである。記念石は、過去の災害を伝える貴重な“災害文化財”となっている。



▲真幸駅ホーム中央から山津波記念石を望む



▲山津波で流れ出た約 8 トンの岩石がホームに



【説明板の掲載文】

山津波記念石

昭和 47 年 7 月 6 日午後 1 時 45 分頃山津波が発生、約 30 万立方メートルの土砂が流出した。この岩塊は当時の山津波で流れ出たものを現地でそのまま山津波記念石として保存するものである。尚、この岩塊は重さ約 8 トンである。

昭和 47 年 8 月 真幸駅長

宮崎県小林土木事務所、えびの市土木課

参考文献：えびの市郷土史編纂委員会 1994、宮崎県における災害文化の伝承（宮崎県土木部）